

平成 29 年度 大分・愛媛交流会議 議事録

開催日時：平成 29 年 12 月 12 日(火) 14:05～15:20

開催場所：臼杵市観光交流プラザ 3 階会議室（大分県臼杵市大字臼杵 100 番地 2）

出席者：愛媛県知事 中村 時広

大分県知事 広瀬 勝貞

1 開会

（大分県企画振興部長）

それでは、ただいまから、大分・愛媛交流会議を始めさせていただきます。本日、進行役の大分県企画振興部長の広瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、大分県の広瀬知事からご挨拶申し上げます。

2 開会挨拶

（大分県 広瀬知事）

それでは一言ご挨拶申し上げます。中村知事さんはじめ、愛媛県の皆さん、ようこそお越しになりました。今日、知事さんは八幡浜から臼杵にお越しをいただいたわけでございますけども、八幡浜の「八幡（やわた）」と宇佐八幡の「八幡（はちまん）」は同じ字で昔からいろいろな関係があると言われていています。

それから、大分県は柑橘の栽培が盛んでございますけども、愛媛県の方がお越しになって始めていただいたというようなことも伺っています。

また、大分県別府、佐賀関、臼杵から愛媛県にフェリーが出ていますけども、おかげさまでこの 1 年間で 100 万人を超える方々が利用されているということでございまして、民間ベースでは、人的交流が既に随分進んでいるなという感じでございます。むしろ行政の方の交流があまり進んでなかったかもしれませんけれども、昨年、中村知事さんから交流会議をやろうじゃないかとお話がありまして、なるほどということで始めました。昨年は私どもが大洲に伺っていろいろなお話をさせていただきましたが、今回は中村知事さんに臼杵にお越しいただいたという次第でございます。こういう会議を通じて、せっかく進んでおります民間ベースの大変たい大きな交流の絆を是非引き続きしっかりと拡大していければと思っているところです。

今日はそういった意味で、大分県は九州の東の玄関口、愛媛県は四国の西の玄関口ということで、そういう玄関口同士の交流の輪をどうやって広げていこうとか、あるいはまた、観光振興について協力をし合うところが多いのではないとか、防災・減災の関係のこともありますが、そういうことについていろいろ話ができれば大変ありがたいなと思っているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

(大分県企画振興部長)

ありがとうございました。それでは以降は広瀬知事の進行によりお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

3 意見交換

(1) 九州の東・四国の西の玄関口の機能強化について

(大分県 広瀬知事)

はじめに、「九州の東の玄関口、四国の西の玄関口」の機能強化についてお話したいと思っております。

大分県の港から四国や本州にフェリーが走っていますが、九州発着フェリーの約8割が大分県ということでございまして、東九州自動車道の北九州～宮崎間が全線開通したものですから、人・物の流れが活発になっていまして、したがって玄関口の機能も強化されたということもあるかと思えます。

そういうことで、順調に伸びております、人流・物流を更に伸ばしていきたいと思っております。そういう意味で我々も港の整備を進めるとか、いろんなことを考えているところでございます。このあたりについて、是非、これから強化を進めながら、意見交換ができればと思っております。

(愛媛県 中村知事)

今日まさにフェリーに乗ってこちらの方に来たのですが、到着早々にご案内いただきましてありがとうございます。

フェリーにつきましては、広瀬知事からお話がありまして、東九州自動車道の開通を受けて、大分・愛媛を結ぶ航路が非常に順調に利用者が拡大しております。

その背景には九州、大分から愛媛を通して京阪神に抜ける最短ルートであるということと、それから、この航路を利用した場合は運転手が1人で済むということ、運送会社のコストの問題もあって、非常に利用が盛んになっているところでございます。

昨年の広瀬知事とのお話の中でも出たとおり、これに併せて観光交流も促進できたらと考えております。

愛媛側の大きな問題点は、なんといっても八幡浜から抜けていく、「大洲・八幡浜自動車道」が現在、進捗はしていますが、まだまだ整備の途上段階にあるということで、この道路につきましては、愛媛県のミッシングリンクの1つと位置付けていまして、最重要課題ということで、国に対しても整備促進の働きかけを行っているところでございます。

3区間のうち、1区間目は目途が立ちまして、2区間目も今、工事を進めています。大洲西道路という最後の区間についても、今年度、新規事業化されたところでございまして、これが完成しますと四国の高速道路との連携が非常にスムーズになりますので、より一層、フェリーを活用した交流が盛んになる時期を迎えるのではないかと考えております。

また、港湾整備につきましても、八幡浜港は八幡浜市が耐震化工事を実施してござい

て、非常に八幡浜サイドの「みなと」という道の駅が好評でありまして、こうした大分との連携する際の愛媛側の窓口、玄関口として大きな機能を果たしていくのではないかと考えています。

今年は特に大分県と協力して7月から8月に松山市と大分市を結ぶフェリーを利用した直通バスの運行実証実験が行われました。また、有名インスタグラマーを呼んで、フェリーを利用した、大分と愛媛の魅力を一気に紹介するような観光ルートの模索なども一緒にやらせていただいておりますので、なお一層これから、本当にこれだけ気楽に船に乗れて海の魅力を満喫できる場所はそうはないですから、大分県との連携をフェリーを通じて強めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(大分県 広瀬知事)

私どもも港の拡張とか、フェリーの発着場所の拡大とかいろいろこれからやっていこうと思っています。心配だったのはその利用客が多いのか、多くないのかということでしたが、けっこう伸びてきていますし、また、フェリー会社の方も最近、大型化をどんどん進めておりますので、そういった意味で協力していけば、もっともっと交流が太く、大きくなっていくのかなと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

(2) 観光連携について

(大分県 広瀬知事)

続きまして、せっかくでございますので、「観光連携について」お話を進めさせていただきたいと思っております。

愛媛県は道後温泉、我々も別府をはじめ、温泉がありまして、温泉を中心にした観光についてお話ができればと思っておりますのでございます。

実は来年5月に世界で初めてではないかと思っておりますが、「世界温泉地サミット」というのをやらせていただくということになっております。別府でやろうということでございます。

今、世界の13ヶ国から代表の方が来てもらうことになっておりまして、迎える我々も日本として、歩調を合わせて迎えようということで実は「シェルパ会議」がありまして、迎える日本側の温泉地の代表が集まって会議をやって準備をしています。道後温泉の組合長さんにもその会議のメンバーになっていただいております、大変建設的なご意見、ご指導をいただいております。

温泉というと観光が全てという感じがしておりますが、最近やっぱりせっかくの温泉を美容、健康、治療などに活用したらいいのではとか、あるいはまた温泉をエネルギーに活用したらいいのではないかと、多様な活用の仕方が議論されています。

「世界温泉地サミット」でもそのあたりで温泉と観光、温泉と健康、温泉とエネルギーというようなことで議論しようかということにしているところです。

温泉を中心にする観光等の議論を盛り上げたいなと思っております。温泉といえ

ばとにかく道後温泉、愛媛県さんも大変有名なわけですから、温泉を中心にした観光について議論ができればと思います。

(愛媛県 中村知事)

今日先ほど昼食をいただいたところへのぼりがある「おんせん県おおいた」という名前が踊っていたのが大変印象的でしたけれども、正直言って大分県は源泉数や湯量において日本でも圧倒的なポジションにある「おんせん県」だと我々は感じています。

昔は愛媛県の方々にとって、おじいちゃん、おばあちゃんの世代になりますが、新婚旅行というのは、三津浜港から当時は出てたんですが、別府行きの船で新婚旅行に行くと。子どもの頃はドラの音が鳴って、離岸して、当時は許されていた紙テープで見送った風景というのが子ども心に刻まれているんですが、そういう意味で愛媛側には道後温泉がありますが、大分の温泉というのは雰囲気も全然違いますから、みんなにとっても非常に憧れの地、場所でもあります。今も夜に、テレビをつけると大分県の有名な旅館、ホテルの宣伝が流れていて、毎日のように見ている気がしています。

道後温泉の1つの売りというのは、聖徳太子ご入湯伝説の歴史最古の温泉というのがイメージになっていると思うのですが、今からちょっと試練の時を迎えておまして、道後温泉本館が重要文化財になっており、この先100年持たせるための改修工事を行わなければならないんです。重要文化財なので文化庁の許可を仰ぎながら工事をするということなので8年ぐらいかかるんですね。全面閉館してしまいますと多大な影響が出ますので、工事をしながら部分的にオープンするという形で松山市は対応しています。

そのためには、それをカバーするために「飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）」という新しい施設が、今年、誕生しました。非常に魅力満載の施設になってまして、松山市にとどまらず、県内の県産品、瓦であるとか和紙であるとか砥部焼などいろんなものをてんこ盛りにした施設になってまして、飛鳥時代というものを1つのイメージとして打ち出しまして、皇室の方々のご利用されていた道後温泉本館の湯釜も忠実に再現して、「湯帳（ゆちょう）」という浴衣を着て入られるようになっており、こういったものを駆使しながら乗り越えようとしているところでございます。

日本人にとって、温泉は非常にブームでありまして、国によっては海外の方にも大人気でございますので「日本最古の温泉」と「日本最大の湯量、源泉数を誇る大分県」と相互に連携したPRをしたら、その効果は倍増するのではないかと思いますので、温泉を使った観光振興、連携は是非アクセルを踏ませていただきたいなと思っています。

先ほどのフェリーというのがお互いにとって、アクセス面でも最大の魅力だと思いますし、愛媛県もソウル便がちょっと休止していたのですが、今年の11月から再開いたしまして、今は、非常に好調でして、90%以上の搭乗率になっています。インバウンドが中心で、7割のお客さんがむこうから来ているんです。うちは、国際便は、上海とソウルだけです。もう1つ、今は台北も考えているんですが、大分の国際便とも連携してイン・アウトも組み込んだ、フェリーも楽しんでいただき、松山から入って、大分から出るとか、

大分から入って、松山から出るとかそんな旅行商品も将来的には海外向けにできるんじゃないかなと思っています。担当レベルでも話し合いを進めさせていただくことができたかなと思っていますので、よろしくお願いします。

(大分県 広瀬知事)

特にインバウンドの話がございましたが、国内線でジェットスターがありますよね。うちもそうなんです、ジェットスターで東京ー松山、大分ー東京というのがあるので、これを入りと出のところをお互いに融通し合うと、この三角形はいいものができるのかなという気がしますので、是非充実させていきたいですね。

(愛媛県 中村知事)

今日つくづく思ったのですが、海を隔てて隣県ではあるんですが、食べ物も全然違うので、逆にその違いがあるからこそ対外的には非常にアピールしやすいのかなという気がしました。魚だったらふぐと鯛とか、かぼすと柑橘とか非常におもしろい組合せができるなあと感じましたので、いろんな商品開発も含めて、できれば大分のイベントにも愛媛も積極的に参加して、愛媛のことを知ってもら。愛媛のイベントにも大分の方からも参加していただいて大いに宣伝していただくなど、そういった地道な情報発信も大事だと思っておりますので、是非よろしくお願いします。

(大分県 広瀬知事)

先ほど港の機能強化の話を上申しましたが、八幡浜でしたっけ、取れた魚をそのままレストランで食べられるようにしたり、ああいう魚の食べさせ方がうまくできてますね。ああいうのはうちにはないんですね。

(愛媛県 中村知事)

あそこは非常にいい成功例だと思うんですね。正直最初できた時にどれくらいお客さんが来るのかなという心配な面はあったんですが、年間100万人来るんですよ。予想以上なんですけれども。もともとあそこは魚市場がありましたから、トロール船の水揚げの基地にもなりましたんで、非常にたくさんの魚が遠洋から、近海から、養殖から全部そろそろ所になっているんです。その市場の改築と同時に「みなと」というレストランがうまくできたんですが、民間主導の経営になってまして本当にうまくいってるんですね。場所はちょっとハンディキャップがあっても新鮮で良いものがあれば十分に集客が見込めるんだなっていうことを教えてくれたいい成功例になりました。

先ほど、広瀬知事に言っていた宇佐八幡宮の八幡様が歴史上政争に巻き込まれ、一時宇佐を離れた時期がありまして、2ヶ月間だけ船に乗って四国にお渡りになられたと。その滞在した場所が現在の八幡浜でありまして、その記録が八幡浜市内の神社に残ってまして、その八幡様が2か月逗留されたということで「八幡浜」という地名がついたそうで

す。そこは大分と非常にゆかりがあります。

(大分県 広瀬知事)

大変我々にとっても貴重ですね。

それから観光といえば、もう1つ中村知事さん自ら愛用しておられる自転車の話題になります。愛媛県は何といいましてしまなみ海道がありますし、自転車も盛んにやっておられます。あれを愛媛県から197号で大分と結んで、瀬戸内を一周するとおもしろいんじゃないかという議論もありますし、このサイクリングルートというのをどういう風にお考えですか。

(愛媛県 中村知事)

もともと就任した7年前に「瀬戸内しまなみ海道」をどう活用するかということが1つの課題であったんですけども、四国と本州が3つのルートで結ばれていまして、その中で橋の部分に自転車・歩行者専用道を持っているのが「しまなみ」だけになります。

この強みを徹底的に活かそうというのがそもそものスタートだったんですが、情報発信の仕方にちょっと悩みがありました。そこで世界の自転車メーカーと組めば情報発信が早いんじゃないかなと思ひまして、台湾のメーカーで自転車生産量600万台でナンバーワンの会社がありまして、その本社に飛び込みで行き、その社長さんと出会ったことが1つのヒントをいただくきっかけになりました。

何を学んだかと言いますと、日本人は自転車を通勤、通学、買物の移動手段としてでしか見ていませんが、自転車の使い方を考えれば、人々に「健康」と「生きがい」と「友情」をプレゼントしてくれるツールになると。それを我々は自転車新文化と名付けまして、県庁には「自転車新文化推進室」という組織が出来ているんです。

この自転車新文化を全国に広めていこうということを当時1つの目標に掲げました。

その第一段階として「しまなみ海道」の高速道路を完全シャットアウトして、ファン・ライド、タイムを競うのではなく、誰しものが高速道路を走られるというイベントをやるということで、足かけ2年の交渉で扉が開きました。3年前に1度やってみたんですけども、当時は海外31ヶ国を含む約8,000人の方に参加していただきまして、自転車イベントを実施し、これをきっかけに世界中の参加された方々がSNSを通じて写真を世界中にばらまいてくれて、今は7年前と風景が一変しまして、週末になると外国人が自転車に乗りに来るような空間になっていきました。

3年前(2014年)、アメリカのCNNが世界7大サイクリングコースの1つに日本で1箇所だけ「しまなみ海道」を選んでいただきまして、その情報発信がまた相乗効果を生んでまして、非常に国際的にも知られるようなコースとなっています。

ただ、ここだけで終わらせるのはつまらないので、愛媛県中をサイクリングパラダイスにしようと第二段階で思っておりまして、今その仕掛けのツールとして、推奨する自転車コースにブルーのラインを引きまして、これはほとんど全県で完了しました。

外国人の来県を想定してフリーWiFi スポットをサイクリングコース周辺に設置したり、パンク対応ができるようにサイクリングロード沿いにある食堂やコンビニエンスストアなどに呼びかけてネットワークを作って、そこに行ったら空気ポンプを無料で貸し出すとか、かゆいところに手が届くようなサイクリストをお迎えする体制を整えました。

ここまで来るとお店も自発的に食堂なんかではサイクルスタンドを店の前に並べたり、そういう風景がどんどん広がって本当に変わったなというふうなことを実感しています。

愛媛県内に26のコースを選定していますが、個人的に推奨するのがメロディーラインでございます、ここは「しまなみ」にも匹敵するほどすばらしく、豊後水道を目指して、右に瀬戸内海、左に宇和海という風景を見ながら伊方町から三崎の方まで行く、最高のコースなんです。

では、その先に何があるかと言えば、船に乗って大分の別世界に行けばいいと。サイクリングについても、しまなみで誘客して、そこで情報発信することによってメロディーラインに引きずり込んで、船で大分へどうぞというルートも考えられるのかなと。

(大分県 広瀬知事)

いいですね。

(愛媛県 中村知事)

大分でも、本当にサイクリングコースがたくさん整備されていると思いますので、是非いろんな仕組みを連携していただけたらと。我々は自転車だけは「しまなみ」があったので先行させていただきましたけれども、共通ツールがあればより連携しやすくなるのかなと思いますので、温泉については我々をご指導いただき、自転車は何かご協力させていただければと思っています。

(大分県 広瀬知事)

佐賀関に来て、あとはずっとまた国東半島から山口へ行くと。

(愛媛県 中村知事)

いいですよ。これから先、自転車を楽しまれる層がどんどん増えていくと思いますので。

海外は若者というより、どちらかというと40代、50代、60代の方々が自転車を楽しまれているようで、最近では、電動アシスト付きのロードバイクが大人気で70代の方がそれで楽しむような時代に入ってきていますので、日本もやがてそういう風になってくるのかなと。そして、疲れたら温泉に入ると。

(大分県 広瀬知事)

台中から定期チャーター便があったんですが、サイクリストが乗ってくるんですよ。

最初は嘘だろと思っていたのですが、本当ですね。
是非こちらの方は勉強させてください、よろしくお願いします。

(愛媛県 中村知事)

来年は、しまなみ海道で第2回目の大規模大会を開催しますので、是非大分県の皆さんも来ていただければと思います。

(3) 防災・減災対策について

(大分県 広瀬知事)

それから「防災・減災」の方ですが、原子力発電所の災害が万一の時に起きたためのために、安全に避難できるよう訓練をやっていますが、今年も11月に訓練をしました。今年も愛媛県の方から約300人の方がおみえになって、規模が大きいものになりました。それからゲート型のモニターを使って、非常に効果を発揮したのではないかと思います。それから受入側としても、大分市だけではなく別府市にもお願いしました。大変これまでの訓練と比べて少し新しいテーマを取り入れながらやれたのかなと思います。今回輸送艦「しもきた」で来られたと思いますが、乗り込むときはホバークラフトを使われるということで、万一の時は砂浜に上陸するというのも訓練になったかなと思っているところです。だいぶこれまでの違った発展があったと思いますが、知事さんどうい風を感じられましたか。

(愛媛県 中村知事)

まずは何よりも、今回、原子力防災訓練に大分県に全面的にご協力いただきましたことに、愛媛県を代表して御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

原子力安全対策については決して終わりが無いということを常に意識しながら、毎年の訓練もただ前回と同じことを繰り返すのは意味がなく、毎回、やった後に検証を行って改善すべき点を次の訓練に活かすということを徹底して、積み重ねてやっているんですが、特に今回新たに行ったことがいくつかありまして、1つは広瀬知事からご提案のあったテレビ会議を使った初動における連絡体制の構築、それからもう1つがドローンを活用した訓練です。これはやってみてわかったんですが、佐田岬半島全域をドローンでカバーするには10台くらい必要だということがわかりました。というのがバッテリーの関係で、20分くらいしかもたないんですよ、高性能のドローンの場合でも。ですから、カバーできるエリアがだいたい決まってしまうので、今回事前にルートをコンピューターで指定をして、オートマチックに飛ばして空から状況を確認するというのを1台だけ使ってやってみましたが、情報収集については非常に有効であるということがわかりました。

ただ、今申し上げたようにバッテリーの関係で1台がカバーできるエリアが限られていますから、今後は今回の結果を検証して8～10台くらいの体制を作って、全域の情報収集ができるように整えていきたいと思っています。

それからもう1つが前回ご指摘いただいたスクリーニングを愛媛側でやってたんですが、時間がかかるので早く愛媛から出た方が良いという状況を想定して今回大分県側で行っていただきましたが、これは非常に有効だということが確認できたんじゃないかと思っています。

それから、今回特に海上自衛隊のご協力をいただきまして、ご指摘のあった港が壊れた場合どうするんだという懸念に込めていくために、LCACというホバークラフトと「しもきた」との連携というものを全面的にやっていただいたんですが、私も乗船してわかったのですが、非常に有効だと感じました。砂浜にいても容易に上陸が可能であるということ、乗った瞬間すぐに出港ができるということを肌で感じました。びっくりしたのが、「しもきた」の中に2台LCACが入っておりまして、船の舳先が割れて、その中に入っているんですが、こういう仕組みなのかということを実際に体感させていただきました。非常に大人数を短期間で輸送できるということを訓練をしながら実際に確認できたことは今回大きな収穫ではないかと思っています。

いろいろなテーマを検証しながら、次回もより県民の皆様への安心・安全に結びつけるように努力を続けていきたいと思っています。

今日1点、当時ご指摘をいただきました連絡体制の問題ですが、今まで大分県への通報につきましては、より早く大分県にもというご指摘を広瀬知事からいただきましたので、今まで通報時期は愛媛県が「公表後速やかに」という体制でしたが、今後は、「公表開始時」、公表と同時に大分県にもという体制に変えさせていただきます。ですから、公表するときはその時点で大分県にお知らせするという形でより早く情報伝達するように変更いたしますので、それを今日お答えとしてお伝えしたいと思います。

(大分県 広瀬知事)

愛媛県民の方と同時ということですね。それはありがとうございます。

(愛媛県 中村知事)

非常に悩んだのは、なぜ今までこのようになっていたかという情報をキャッチした後本当にそうかという確認の時間を取っていたんですね。ですからそこも併せて、まだ確認ができていないかもしれない時もあるかもしれませんが、その時はまた申し上げますので、愛媛県が公表するときに同時にお知らせするようにいたします。

(大分県 広瀬知事)

愛媛県さんには我々も非常に感謝しております。県民の方々も安心しているところですが、公表開始時にしていただけるとますますはっきりしていいと思います。

(愛媛県 中村知事)

大分県の皆さんにお知らせしたいのは、全国に原子力発電所がいくつかありますけれど

も、愛媛県だけが行っている「えひめ方式」と呼ばれる報告連絡体制が四国電力との間で構築されています。

通常、原発内で何かが起こりますと、その情報というのは電力会社の広報に上がることになっています。広報に上がって広報が咀嚼して確認をして、例えば県庁であるとか、対外的な公表を電力会社の広報部がやっているのが普通の仕組みでございます。

ただ、四国電力だけは全く違った方式をとってまして、伊方原発で何かあった場合は、速やかに愛媛県庁に連絡が来るということです。愛媛県庁がその公表の権限を持つということになっています。愛媛県が公表するという形になっていますので非常に早い体制です。しかも本社というフィルターがかかりませんので、特に四国電力に対して常々言っているのは、連絡が遅れたり、隠したりというのがわかった場合は信頼関係が全てこっぴみじんになると合口を常に突きつけてますので、例えば、くぎが1本落ちていたとか、そんな些細なことでも全部連絡が来ますので、それを区分ごとに別けてマスコミに公表する案件や公表に至らない案件を県庁で全て精査して、県庁が公表するようにしていますので、その点をご安心をいただけたらなと思っております。決して隠し事はさせないということを今後とも徹底して、要請を続けていきたいと思えます。

(大分県 広瀬知事)

これまで現場から本社、本社から公表ということが多かったので、今の「えひめ方式」は非常にいいですね。

(愛媛県 中村知事)

たぶん他の電力会社は嫌がると思いますがね。

それと伊方原発3号機ですが、これはご報告になりますが、再稼働して1年経ちまして定期検査に入っております。今回はさらに安全性の高い上蓋への交換工事というちょっと大がかりな工事になってまして、その点についても、常に安全委員会、県庁が逐一その工事状況を確認しながら進めていますので、その点もご安心いただけたらと思っております。

その工事の過程で、三菱マテリアル、神戸製鋼の問題がありましたが、一部その会社のものが使われてはいるんですが、問題になっている製品はありません。全て別の製品でかつ、別の工場で作られているもので、精度分析もいたしまして問題ないということを確認していますので、その点についても今回ご報告をさせていただきたいと思えます。

(大分県 広瀬知事)

もう1つ伊方の原発では山の方から電源を持ってきて、万一の時はそこから電源を確保できるようにしているということですが、あのルートもしっかり生きていくということですね。

(愛媛県 中村知事)

たぶんご覧いただいたと思うのですが、実は、伊方原発で国から指摘があったのは、非
常用ディーゼル発電機を国の基準に基づいて用意してというのが、国の採った電源対策で
ございました。ただ、我々としては電源こそが命であると。仮に壊れても、電源さえあれ
ばモーターを回して、海水をかけて冷やす機能さえ持てば暴走は止められますので、全て
の安全の根幹は電源確保であるというふうに我々は考えました。

そこで国は非常用ディーゼル発電機の設置で良いと言っているけれども、愛媛県として
はそれでは納得できないということで、国は求めているけれども、さらにアディショナ
ルな電源確保を要請するというのを四国電力に突きつけました。その答えが広瀬知事が
ご覧になられた上にある亀浦変電所から1～3号機に至る別ルートの電源でして、これは
国が求めているアディショナルな電源なんです。これにつきましても、全て耐震補強工事
を施してもらってますので、その揺れにも耐えられる最後の電源対策としてやってもらっ
てますので、これが稼働できれば海水をかけて暴走を止められるという構えにしています。

(大分県 広瀬知事)

その他防災・減災について、私どもは今年、集中豪雨があったり、台風があったり本当
に愛媛県にお見舞いをいただいたり、また、人的支援をしていただいたりと大変助けてい
ただいてありがとうございます。

復興にあたって、あれと同じくらいの雨が降った時にまた同じことが起きたら大変なの
で、改良復旧といいますか、少し前より川の流れの能力を高めたり、そういうことをやっ
て耐久力を強めようと思っています。

それから、地震・津波対策についても、要所々でいろんな対策をとっているんですけれ
ども、特に佐伯、津久見、臼杵に津波が押し寄せたときにいざというときに、逃げられる
場所を確保しておくことなどを含めて、きめ細かく対策をとっているところです。

愛媛県さんの方はこの地震・津波対策、他にいろいろ考えておられますか。

(愛媛県 中村知事)

愛媛県の場合、佐田岬以南の宇和海は、瀬戸内海とは全く違う対応が必要でして特に宇
和島市と愛南町という南の方は、これは想定ですけれども、東日本大震災級の規模で南海
トラフ地震が発生した場合に、10m以上の津波が押し寄せてくる可能性があると言われて
いますので、とにかく命が大事ということで、集落ごとに緊急のうえの緊急避難路を、山
の上に登っていく避難路を一気に整備しようということで、市町との連携事業で352箇
所の緊急避難ルートを作りました。

また、そこに資機材を効果的に配置しておりまして、こればかりは全てを防げるよう
な物ではないかもしれないですけども、しっかりと費用対効果を見極めながら優先順位
を付けて、今後とも津波対策にはしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

また、瀬戸内側はむしろ液状化の問題と揺れに伴う倒壊、火災の問題があるので、大分
県もやられていると思えますが、木造住宅の耐震診断や改修工事の補助制度を立ち上げて、

揺れ対策にも取り組んでいるところです。

その他、全国的には大分県か愛媛県かというぐらいになっている防災士の育成を通じて共助の仕組みをとにかく地域で濃くしていこうということでこの対応も続けていきたいと思えます。

(大分県 広瀬知事)

私どももとにかく県南浦々には、まずは命が大事なので、山の方に逃げるという話をしており、緊急避難路を回って、あとは避難場所でいつでも避難者を確認できるということをしています。それでその場所に必要な物を入れているんですけども、そこに行った後の通信手段というのが大変ですね。山の方にとにかく逃げ込むということになってますが、そこが案外通信手段が課題で、どうやって連絡をとるのかということで、衛星電話等々を検討しています。

(愛媛県 中村知事)

衛星電話ですか。たいぶ安くなってきましたもんね。

(大分県 広瀬知事)

全部の箇所というわけにはいかないかもしれないので、各拠点に置いて、そこで連絡が取れればということです。

(愛媛県 中村知事)

こちらからもお願いがあるのですが、遅ればせながら今年の2月からドクターヘリコプターの運航を開始しました。まだ始めたばかりなので、先行してやられている大分県にいろいろな面でアドバイスをいただければと思います。お問い合わせの際はよろしくお願ひします。

(大分県 広瀬知事)

ドクターヘリは本当、使ってくれるといいですね。

(愛媛県 中村知事)

2月から約10か月の運航なんですが、最初はどのような時に呼んだらいいんだろうという戸惑いもあって、最初はなかなか出動回数が少なかったんですが、最近はどんどん増えてきて、現在、約200回ぐらい出動しています。たぶん、来年以降は年間5~600回ぐらいになるんじゃないかという気がしています。

(大分県 広瀬知事)

減災に係る防災士について、随分両県とも育成に努力してますが、私どもがよく言われ

るのが、フォローアップですね。1回資格を取ったらそれでいいのかということをよく言われるんですが、フォローアップは何かやっておられますか。

(愛媛県 中村知事)

たぶん同じようなことだと思うんですが、全県で連絡協議会の組織化を図って、そこで研修を定期的にやったりしています。

実は、松山市長時代の方が根を生やした活動をしてました。当時、松山市で防災士の育成を平成14年から徹底的にやり始めた経緯があります。全国に約1,700の市町村がありますが、防災士の数は松山市が1位なんです。2位がたぶん人口の多い横浜市、3位が名古屋市だったと思います。市単位では松山市がダントツに1位です。その時に広瀬知事ご指摘のことをどうすればできるか考えて、当時、松山市の中に自主防災組織連絡協議会だったと思うのですが、そこで定例会をやって実施事例を発表しながら、お互いが刺激をシェア。

もう1つやったのが、チャレンジ事業というものです。松山市の場合、基本的に自主防災組織単位に防災士がいるんです。自主防災組織が先行してあって、そこからの推薦で防災士になっていただくという仕組みです。ですから、防災士が個人の資格ではなくて、地域の代表の資格になっていて、そこで連絡が図られています。それで、地域でどんな防災訓練をやるつもりですかという工夫、アイデアを競ってもらいました。これはいいなというところをモデル地区にして、そこに予算をつけるということをやったんです。それをやりますと、うちはこんなじゃダメだな、また来年トライしようなど、いろんなアイデアが出てきますので、それを検証しながら、良いものは全市に広げるなど、そういうことをやりました。

(大分県 広瀬知事)

防災士は組織の代表として来るわけですね。

(愛媛県 中村知事)

個人で防災士になったという意識より、自分は地域のみんなから推されて、地域代表として資格を取りに行くんだという意識付けを行いました。防災士の資格を取った人は個人の資格と思ってないですから、帰ってから自主防災組織のリーダーになる、こういう仕組みにしました。

(4) 両県PR事項

(愛媛県 中村知事)

来年10月に、2回目の大規模大会である「サイクリングしまなみ2018」を広島県と一緒に開催予定としております。コースの設定上、大半のスタートが愛媛側になります。尾道からのスタートもあるんですが、キャパが小さいもので、全体で7~8,000人くらい

ですが、尾道スタートは1,000人だけなんです。ですから、愛媛側でほとんどの方がスタートします。コースは7コースありまして、子どもも含めて楽しめる40kmコースから、一番長いのは140kmのコースまでで、これは今治から尾道まで行って、尾道から今治に帰るというコースもあります。それぞれ脚力に応じてコースを選んでいただくことになります。

ただ、いずれのコースでもどこかで高速道路の本線が走れるというコース設定になっております。ですから、料金所をくぐって本線を走ると、これが売りでございます。どのコースを選んで島を巡ったり、サイクリングを楽しめる1日でございますので是非大勢の方にご参加いただければと思います。

もう一つの紹介はサイクリングアイランド四国になります。

(大分県 広瀬知事)

この(四国一周サイクリングチラシ)赤い橋の写真はどこですか。

(愛媛県 中村知事)

この写真は、どこだっけ。

(愛媛県企画振興部長)

愛媛県の大洲市長浜の赤橋です。

(愛媛県 中村知事)

大洲市の長浜町にある赤橋でして、可動橋で重要文化財になっています。四国一周サイクリングのことではお遍路さんと同じなんです。これは高知県、香川県、徳島県も話に乗ってくれました。会員登録をして3年以内に四国一周をすると、記念品が出るという仕掛けをしております。1,000kmぐらいありまして、それぞれ風景も違いますので、山あり、川あり、海ありと楽しめますので是非ご紹介をさせていただきたいと思っております。以上です。

(大分県 広瀬知事)

大分県の国東半島宇佐地域に神仏習合文化というのがありまして、六郷満山が開山して1300年というのが来年なんです。いろんなところでいろんな行事が行われ、なかなか奥の深い文化でございますからよろしく願いますというのが1つです。

もう1つは、来年秋ですけれども国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を大分県でやるというのが決まっております。いろいろおもしろい行事を用意しており、特に最初の開会式、オープニングのところが芥川賞作家の小野正嗣さん書き下ろしの脚本など、いろいろなおもしろいことがございますのでお越しいただければと思います。

(愛媛県 中村知事)

この国民文化祭は2回目なんですね。

(大分県 広瀬知事)

そうなんです、20年ぶりの2回目です。

(愛媛県 中村知事)

うちは1回やってるんですけども、まだやってない県もあるのによく取れましたね。

(大分県 広瀬知事)

それから、ラグビーのワールドカップの関係で、これは再来年なんですけども。

10月2日から大分県では5つゲームが行われることになっています。

予選プールが3つ、決勝トーナメントが2つで、ニュージーランド、オーストラリア、ウェールズ、フィジー、決勝トーナメントはイングランドも可能性があります。再来年のことだからという感じがするかもしれませんが、来年の1月からチケットが販売されます。サイクリングしまなみと同じようにすぐに売り切れるかもしれないですが。

(愛媛県 中村知事)

何週間か開催されるんですよ。

(大分県 広瀬知事)

試合が10月2、5、9日とありまして、また決勝トーナメントが19、20日とあります。最大の課題は芝生をどうやって維持するかということですね。

(愛媛県 中村知事)

競技場は1箇所だけですよ。

世界標準の芝生ですか。全部張り替えるんですか。

(大分県 広瀬知事)

ちょうど張り替える時期にきているものですから、それはしょうがないんですけども。人工芝と天然芝のハイブリッドでやるのが一番強いらしいんですね。ところが日本のサッカーではまだ認められていないということでございまして。Jリーグと相談しているところなんです。

(愛媛県 中村知事)

ラグビーはハイブリッドが標準なんですね。

(大分県 広瀬知事)

ええ、ラグビーはどっちかというハイブリッドじゃないという感じです。天然芝でもいいんですが。

4 閉会挨拶

(大分県企画振興部長)

ありがとうございました。本日の意見交換の内容につきましては両県で事務的に協議を進めまして、取り組んで参りたいと思います。閉会にあたりまして、中村知事からご挨拶をいただければと思います。

(愛媛県 中村知事)

本日は広瀬知事はじめ、中野臼杵市長さん、会場となります臼杵市の観光交流プラザの皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

この会議に先立ちまして臼杵市の町並み、拠点施設の見学をさせていただきました。

7年ぐらい前に一人で来たことがありまして、無性に臼杵のふぐが食べたくなくなったというのが動機でございまして、ふぐを食べて1泊して、温泉に入って、なごり雪の映画のロケ地を回り、石仏を眺めながら、あの空間にいると長時間滞在できる空間だなと当時つくづく思いまして、そんな光景が蘇っていきました。

本当に町並みに配慮したまちづくりが展開されていて、地域の皆さんの町に対する気持ちというのがまちづくりの中に現れていることを痛感した次第です。

今日は、大分県とは様々な交流が一層進む機会になればと思っておりますし、何よりも先般原子力の防災訓練での御礼も含めて、これからもいろいろな面で双方が発展できるような交流につながればと心から期待しているところでございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

(大分県企画振興部長)

ありがとうございました。

以上をもちまして交流会議を終了いたします。

5 取材対応

(大分県政策企画課長)

それでは、ご質問をお受けしたいと思います。報道各社におかれましては挙手の上、社名をお伝えいただいて、ご発言願います。

(大分合同新聞)

両知事に1問ずつお伺いしたいと思います。

まず、中村知事から。伊方原発の情報伝達の見直しについてですね、速やかに大分県の

方に連絡するということですが、今回見直しを決められた経緯とその思いを伺いたいのと、その後広瀬知事にはあらためましてこの見直しに対して一言いただければと思います。

(愛媛県 中村知事)

これまでの体制というのは、いろんな情報が入ってきたときにしっかりと確認をして、把握できた段階で順次お知らせしていくという体制をとっていましたが、先般、この連絡体制について、広瀬知事から、前回の時に大分県側からすればもう少し早い方がいいねという指摘がありましたので、何か工夫できないかということ部下に指示をいたしました。ですから、見直しのきっかけは広瀬知事からのリクエストということになります。

検証した結果、公表する時点で同時にお知らせするのが一番いいんじゃないのかということ事務レベルで調整しまして、今日はその方針の変更をお知らせした次第です。

(大分県 広瀬知事)

今、中村知事がおっしゃった経緯でございますけれども、私はできるだけ遅れがないようにお願いしますと申し上げたんですが、「公表開始時」とわざわざ書き方を強化していたのだということ今日大変ありがたいなと思って、承ったところです。

とにかく、この問題についてはですね、何も無いのが一番いいんですけども、万一の時にはですね、情報を共有しながら、お互いに協力すべきことについては協力し合いたいということになっているわけですから、しっかりやっていきたいこう思っております。

(朝日新聞)

中村知事に伺いたいんですが、今の情報連絡体制のことで確認したかったんですが、これまでは愛媛県さんが情報を把握して大分県に伝達するというのは、あくまで公表後速やかにということだったんですかね。

(中村知事)

そうです。

(朝日新聞)

じゃあ公表しない限りはこれまでも大分には連絡するという風にはなっていなかったということですね。

(中村知事)

そうです。

(朝日新聞)

では、これからは「公表後速やかに」の部分と同時にするということですかね。

(愛媛県 中村知事)

同時にします。この速やかにというのが非常に微妙なところでしたので、そのあたりでタイムラグが生じていたことを避けるために、もう公表する時には同時に大分県にはお知らせするというふうにさせていただきます。

先ほど触れましたけれども、他の電力会社と違って、「えひめ」方式と呼ばれる電力会社との連絡体制を構築できています。ですから、愛媛県が出すのが一番早いと思います。

(毎日新聞)

関連してですが、県に限らず大分市、別府市にもお話伺ってますが、公表開始時にというのは一步前進だと思のですが、実際市側の本音としては愛媛県内で発表すると当然すぐに大きな事故でしたら、県民が知ることになります。その中で大分市、別府市はどう対応したらいいのかという問合せがたくさん来ると。その次に自分たちが情報を把握したばっかりだったら対応ができないので、なんとか少しでも早めに情報を知ることができたらいいんだけどというのが本音のようだと取材して伺いました。そういう風に行政同士で公表よりも早めに情報伝達するということまではやはり難しいのでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

大きな問題につきましては、公表する区分がはっきりしていますので、大きな事故に関してはキャッチして連絡があった段階で速やかに公表します。ですから、愛媛県でこれは大きな区分に入っているぞと判断したら、その時点で速やかに大分県に連絡しますので、それは即、情報が行くということと受け止めていただいて構わないと思います。

(大分合同新聞)

両知事に伺いたいんですが、お話の中で航空便やフェリーを介した観光連携ということで、インとアウトを組み込んだ旅行商品についてもご意見がありました。あらためて双方の連携、取組について今後具体的にどういう風に進めていきたいかということをお互いに向けた意気込みも含めてですね、一言ずつ頂戴できればと思うんですが。

(大分県 広瀬知事)

冒頭申し上げましたように、随分大分県・愛媛県の交流が盛んに行われているなという感じが最近するわけです。もっともっと交通の関係で便利がよくなれば、そこどころが随分また増えてくるんじゃないかなと感じました。それぞれ限界はあるかもしれないけれども、例えば、大分、愛媛に来ている飛行機、お互いに入りと出の連携をやっていくといろんなことができるのではないかと思った次第です。サイクリングのお話、台中、台北と

の関係もお客さんが来てくれるかもしれないですし、そんなことを含めてもっと柔軟に、飛行機などそれぞれ1本1本と考えないで、いろいろ考えたら、可能性が広がってくるのかなと思っています。これから知恵を出していこうと思います。

(愛媛県 中村知事)

これまで観光というと、我が県、我が市を中心にとか、そういったものが通り相場だったと思うのですが、移動手段が高度化されてきて、通信情報伝達手段も広範囲になってきましたんで、旅人に対しては、より広域的に豊富なメニューというものを用意した方が誘客につながる時代に入ってきたと思います。

ですから、大分県でしたら九州というフィールドがあるでしょうし、愛媛県でしたら四国での連携もあるでしょうし、瀬戸内海をぐるりと回る連携もあると思います。

大分と愛媛で面白いなあと思っていますのは、日本でも利用者が増えているフェリー航路はここくらいしかないんですね。ですから、こういった特殊な海路の発展状況が背景にあるということと、それから、先ほども触れた食にせよ、風土にせよ、違いがあるということが豊富なメニューを揃えるには最高のコンテンツだなという風にも感じました。

今まであまり考えられていなかったと思うのですが、1つの切り口ですが、海外路線なんかでも飛行機、そして海、また飛行機というルートも今後はありかなと思いますし、そういう話し合いが進められる環境が大分と愛媛にはあるんじゃないかと期待をしています。

(両県知事)

どうもありがとうございました。